

岐阜女子大学

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業に採択(5年継続事業)

”地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための
基盤整備事業”の研究成果を学生の教育まで発展

「知識基盤社会に対応できる学生の育成」

岐阜女子大学は、今後の知識基盤社会で学生一人ひとりが生き抜くために必要とする、知識・技能をデジタルアーカイブを用いて、一年次から卒業まで継続したカリキュラムで、次のように育成します。

デジタルアーカイブの基礎(1年次)

大学の教育・研究や社会・企業等での資料の収集・記録、選定評価項目と適用、保管、流通、利用の方法についての基礎を学び、大学や社会で利用できる確かな力をつけます。

ポートフォリオ評価への適用(大学生の教育の観点)

自分の学修ステップごとに資料をファイルし、必要に応じて過去の学修を見直し反省し、その上で次の課題を主体的に考え、実行できるようにします。
この実践のプロセスを通じて、企業を始めすべての分野での資料の保管と、その有効利用の必要性を知り、将来いろいろな職業で利用できる確かな力をつけます。

教育活動の記録・保管・利用(大学生の研究の観点から)

今まで実験・実習、観察や学修のプロセス等を紙で記録してきた実験ノートに代り、それらを記録用のデジタルアーカイブ化し論文、研究資料を作る時の基礎データとして利用できるようにします。
大学・企業などでデータ記録の不備により、研究作品などで問題が発生しています。今後、デジタルアーカイブを用いて社会(企業・施設等)で何をどのように記録すれば何ができるかを考える力をつけます。

知的創造処理への適用

紙のファイル使用から発展してきたデジタルアーカイブの利用(資料提示)と、知的な処理を用いて課題を解決(課題解決)、さらに、そこで得られた評価・改善等の新しい知を人間の記憶と同様に保存する「知の増殖型サイクル」を学び、新しい観点でものごとを考え、世界の資料を利用し新しい課題に対応できる力をつけます。

卒業論文・研究のデジタルアーカイブ作成・保管

一連の学びで、自分の卒論、作品、成果物、研究成果をデジタルアーカイブ化できる力をつけ、さらに研究報告、補完資料等のよりよい記録が、企業など全ての分野で使えるようにします。このように、本学の全学生が知識基盤社会に対応できる確かな力をつけ、今後の社会で役立つよう育成します。

(注)ヨーロッパ、米国などでは、すでに知識基盤社会を支えるデジタルアーカイブの提供が始まっています。日本は基盤整備が遅れていましたが、現在「デジタルアーカイブ整備基本法」が国会に出されようとしています。

専門分野を教育研究する「デジタルアーカイブ専攻」を設置
このため、岐阜女子大学はデジタルアーカイブ関係の教育研究を専門とする「デジタルアーカイブ専攻」を設置しました。